

Doc 2402 B.

機密

文書番号	總研資才四五号
連番	才 20 号
調査項目	昭和十七年一月二十七日
調査部数	一五〇部
處理	所内保管 所外交付分：用済返却

大東亞共栄圈建設原案(草稿)

總力戰研究所調製

EX/1336

No 1

FILE COPY
RETURN TO ROOM 361

Doc 2402.B

No. 2

大東亞共榮圈建設 原案 (草稿)

(目次 — 三三)

第一章	建設大綱	一
第二章	建設目標	六
第三章	建設精神	八
第四章	政治建設	一六
第五章	經濟建設	二七
第六章	國防建設	三九
第七章	文化建設	四三
第八章	國際關係	四一
第九章	建設方針	三八
第十章	建設階段	三八
第十一章	建設要諦	三八
第十二章	建設要領	三八
第十三章	軍事	四一
第十四章	政治	四一
第十五章	經濟	四一
第十六章	文化	四一
第十七章	戰爭方針	四一
第十八章	戰爭指導	四一
第十九章	國際關係	四一
第二十章	米國關係	四一
第二十一章	支那關係	四一
第二十二章	總力戰要諦	四一
第二十三章	國內建設	四一
第二十四章	精神建設	四一
第二十五章	國防建設	四一
第二十六章	經濟建設	四一
第二十七章	政治建設	四一

(終)

Doc 2402B

第一章 建設大綱

(一頁—五頁)

第一 方針

皇國の道義、顯現ニシテ皇道を宣布スル其本領トナシ
ハ弘一宇ヲ肇國、精神ト夫道トセサル所ニ動クモナシ
ハ弘ニ皇道ヲ宣布スルハ肇國皇道本然、精神ニ徹シ
先ツ東亞ニ道義ヲ行ヒ之ヲ結成シ其文化ヲ興隆セシ
ルヲ初メトナス而シテ之カ為ニ皇國自ラ益々国力ヲ
養フトモ東亞ヲシテ改米、桎梏ヨリ脱却シ自主
出米本然、形態ニ暗ラシメ各國家民族ヲシテ協和
寄住其處ヲ得失々其天分ヲ遂ケルヲ要ス

第二 東亞自主出米、形態

太平洋並中央亞細亞及印度洋ニ依リ包摂セラル、
戰域ニ於テ其國家民族ト其資源トヲ總括シ
此ニ東亞國家民族、タメ自主出米、寄住區域ヲ劃
定ス

日本、滿洲、北支、揚子江下流地域及ソノ領沿海地
域ヲ包摂スル疆域、東亞結合ニ於ケル中核地帯
トシ皇國ハ東亞結合ニ於テ指導的使命ヲ有スルモ
ナリ

故、タメニ東部西比利、支那、印度支那、南洋並蒙
門、印度等、解放乃至獨立ヲ決テ必須、勢トナス

No 3

第三 東亞結合ニ於ケル地域の劃ト皇國、國防圈
東亞結合、為ニ皇國ハ其安全勢力ヲトシ
其指導勢力ナリ

而シテ皇國力東亞中心勢力タルノ實ヲ具フルカ爲
ニ先ツ東亞中核地帯ノ安固確立ヲ必要トナ
シ且東亞建設ノタメ其地域ヲ定メ如ク劃定ス
中核國 皇國ノ存立國ニシテ日本、滿洲、北支、
揚子江下流域及ソレ領沿海地域
ヲ包括スル疆域

小共榮國

東亞小自給國ニシテ中核國及東部西北
利支那、印度支那、南洋ヲ包括スル疆域
東亞大自給國ニシテ小共榮國及濠洲、
印度、太平洋諸島ヲ包括スル疆域

大共榮國

右區劃ニ對シテ、如ク皇國ノ國防圖ヲ劃定シ同時
ニ東亞防衛ノ標準トナス

基礎圖

概テ中核國ニシテ絕對ニ安全ヲ確保
スベキ疆域

防衛圖

概テ小共榮國ニシテ歐米ノ侵攻ニ對シ
完全ニ防衛スベキ疆域

威力圖

概テ大共榮國ニシテ歐米ノ侵攻ニ對シ
優位ヲ確保スベキ疆域

以上當面先ツ小共榮國（防衛圖）ノ範域ヲ以テ
東亞建設及國防安定ノ目標トナシ之ヲ確立後
逐次大共榮國（威力圖）ノ建設ニ及ブベキモノトス

東亞經綸ノ要領

支那與地敵對勢力ヲ倒壊シ中核國ノ建設
ヲ促進シツ、新支那ヲ育成シテ日支問題ヲ解決

才五

處理ニ次テ日滿支善隣結合ノ具現ニ至ラシム
印度支那及南洋ヲ含ム疆域ニ於ケル英米東
亞侵略勢力ヲ驅逐シテ我防衛圈内ニ包括
スルカクメ當面ノ戦争ヲ包含スル対英米戦争
ヲ遂行ス

ソレ聯ノ東亞侵略勢力ヲ驅逐シ東部西比利ヲ
ソレ政權ヨリ分離シ我防衛圈内ニ包括スルガ爲
対ソレ戦争ヲ豫期ス

右北方ノ問題ハ情勢ニ依リ已ムヲ得サル場合今
次ノ日支及南方問題ノ一般解決以前ニ發生スル
コトアルヲ考慮ス

次テ濠洲及印度等ノ解放乃至獨立ヲ逐次誘
導スルガヲノ英國及其提携國ニ対シ再戦ヲ
豫期ス

右過程ニ於テ適時大蒙古國ノ建設ヲ豫期ス
以上中少モ小英米圈迄ハ今後二十年ヲ目途トシ
テ概成ス

国力建設

皇國ハ東洋道義文化再建ノ中心先覺トシテ先ツ
官民一途東洋ニ歸リ道義國体ノ本義ニ徹セラル
ベカラズ

經濟的建設ニ先ツ日滿國力ノ充備結成ヲ強
化シ日滿支ヲ結合シ特ニ日滿北支ヲ一環結合シテ

Doc 2402.B

東亞、核に工業ヲ建設シ且南洋ニ利ニ所要ノ
國聯ヲ確保ス

國力及武力、建設ハ東亞經濟ノ段階ト國防圖
ニ影響ヲ有スル諸情勢トニ即應スベリ今後
防衛圖ニ付スル尖米ヲ支、阻碍勢カヲ排除
シ得ルコトヲ以テ標準トスベシ

第二章 建設目標

(六—七頁)

第一節 建設精神

畏クモ天皇ノ宇宙、根源、道義、本源ニ在リ。故ニ皇道
ハ道義、顯現ニシテ世界ノ規ヲ範タリ。皇國臣民ハ、此ノ信
條軌則ヲ安んじ、世界ノ道義秩序ヲ樹立スベキ生成
發展ノ歴史的使命ヲ果サントスルモノナリ。

然ルニ近世、欧米諸國ハ物質文明ノ餘威ヲ驅リ、東洋
ヲ好餌トシテ侵略シ、道義ヲ重ニスル東洋ハ『歐化
セル亞細亞』ニ墮落シタリ。而シテ之ニ對抗シ、之ヲ排除
シ来レルハ神國日本アルニシ。

今ヤ米英其、他、諸國、貪婪ハ皇國ノ存立ヲモ脅カス
ニ至リ。コレ天ノ共ニ許容セザルトコロナリ。茲ニ皇國ハ神武
ヲ發揮シ、之ヲ破碎シ、國基ヲ鞏クシ、更ニ東亞ヲ救
済シテ、其ノ未來、面目ニ歸ラシメ、雄渾正大ナル秩序
ノ下ニ之ヲ糾合シ、東亞ヲ復興シ、以テ之ヲ天意ニ基ク

No 6

Doc 2402B

協和安住、地ヲシメントス其要トスルところ、東洋道義
文化建設ニアリ即チ大東亞結合、秩序、
道義建設天分ノ存養及文化、融合ヲ以テ共同、理想ト
シ善隣協和共同防衛及經濟提携ヲ以テ國家民族間、
規律トナシ人倫、復活ヲ以テ内部、軌範トナス而シテ皇
國ハ之ガ中心源泉ナリ。
斯クテ東亞、道義秩序完成セバ其及テ所敗米諸國ハ
之ヲ師法トシ終局スルところ其、物質至上利己第一、人
生觀ヲ放擲シテ道義的、新秩序ヲ樹立スルニ至ルコトモ
亦庶幾スベシ。

第三章 建設目標 第二節 防衛

第一國防圈及東亞防衛

- 一、敗米、侵攻ニ対シ我國防ヲ十全ニ安固ナラシムル為ニハ、
東亞ヲ防衛スルヲ要シ而シテ又東亞ヲ防衛スルハ則チ皇
國、國防ヲ完ウシ國是ヲ貫徹スル所以ナリトス。
- 二、皇國、國防及東亞防衛、為ニハ概ネ小英榮圈ヲ以テ防
衛圈トナシ其、周縁ハ本防衛線ナリ即チ敗米ノ侵攻ニ
対シ完全ナル防衛ヲ図ルト共ニ中核圈ハ國防上ノ基礎圈
トシテ之ガ絶對安全ヲ確保シ以テ防衛ノ複層トナス
更ニ外則大英榮圈地帯ハ之ヲ皇國國防及東亞防衛上
ノ威力圈トナシ敗米ノ侵攻ニ対シ優位ノ態勢ヲ逐次確定ス
- 三、皇國、國防及東亞防衛、為テ緊要ナル防衛圈上、
要域左ノ如シ
（一）カムチャツカ、半島方面
（二）東部西比利亞方面及蒙古地方

No 7

Doc 2402B

- (三) 支那本部ニ連ナル西方地域
- (四) 印度支那半島方面就中「ミ」半島南部及其近傍
- (五) スンダ列島及「ニ」ギニア島方面
- (六) 内南洋東部方面

右ノ外前記第一線要地ノ後方ニ所要ノ地域ヲ選定シ以テ前線ト合シ一体縦深ノ防衛編成ヲ行フモノトス

四、特ニ防衛確保スベキ連絡線左ノ如シ

- (一) 中核圏内ノ陸海空路線
- (二) 中核圏ヨリ蘭印方面ニ至ル海空幹線

五、威力圏ニ對シテハ其ノ重要戰略要點ニ對シ逐次基地ヲ推進スベキモノトス

第三防衛力

右ニ依リ今後概ネ二十年ヲ目途トスル將來ノ列國ノ東亞侵襲作戰能力ヲ判斷スルコト左表ノ如シ

今後二十年ヲ目途トスル列國對東亞侵襲能力推定表

区分	前線兵力 (千人)	第一線航空兵力 (千機)	海軍艦艇 (萬噸)
支那	4,000 — 6,000	相当量	若干
ソ聯	2,600 — 5,200	30 — 60	50
米國	1,300 — 2,600	50 — 100	350
英國	800 — 1,600	30 — 60	130
独乙		30 — 60	80 (伊ヲ含ム)

No 8

Doc 2402B

備考	<p>一 前線兵力ハ陸海空軍ヲ合ス後方兵力ハ別ニ略シ同様ト見做スベシ</p> <p>二 海軍艦艇ハ十年後ノ推定ナルモ現大戦ノ推移ニ依リ相当ノ変動アルベシ</p>
----	--

即チ各國重要作戰兵力ノ基準ハ左ノ如クニシテ英米ソノ三國
 辛ク米方面情勢ノ張弛ニ依リ其各三分ノ一程度ヲ上下スルモノトス

(一) 米英二國ノ場合

前線兵力	三百萬
第一線航空兵力	四萬—十數萬機
海軍艦艇	四百八十萬噸以上

(二) ソノ併

前線兵力	四百萬
第一線航空兵力	二萬—五萬機
海軍艦艇	五十萬噸以上

(三) 米英ソノ三國

前線兵力	七百萬
第一線航空兵力	六萬—二十萬機弱
海軍艦艇	五百三十萬噸以上

(四) 支那

前線兵力	四百萬—六百萬
第一線航空兵力	相當量
海軍艦艇	若干

皇國ハ其ノ防衛ノ爲前記各國作戰兵力ヲ撃破スルコトヲ標準
 トシテ將來ノ戰時兵力ヲ建設セザルベカラズ
 而シテ若シ之ヲ機械的ニ同數基準トセバ

No 9

Doc 2402B

前線兵力 一千萬 (後方ヲ含ム時、二千萬)
第一線航空兵力 六萬—三十萬機 (後方ヲ含ム時、
十八萬—六十萬機)
海軍艦艇 五百三十萬噸以上

、巨大ナル數量トナル

第二章 建設目標

第三節 政治建設

(一六—二六頁)

第一 基本方針

大東亜共榮圈建設、大理想ヲ達成スルニ、我國ハ先ニ當面、
大東亜戰爭完結ヲ必要トスルノミナラズ、更ニ將來次期大戰爭
ヲモ豫想セザルベカラズ、從テ今後二十年間ヲ目途トスル東亜
ノ政治建設ニハ、次ノ二點ヲ基本的出發点トセザルヲ得ナ
ルナリ

一、對他國戰爭遂行態勢、整備。

二、東亜小共榮圈、結合建設

此ノ二點ヲ考慮ニ置ケテ東亜政治建設、基本方針ヲ考
フルニ左ノ如シ

(一) 小共榮圈内ニ於ケル歐米諸國、政治的支配勢力ヲ逐次
排除スルト共ニ從來ノ制扼ニ比シ解放ノ事實ヲ與ヘルコト

(二) 圈内諸民族獨立ノ要望ハ之ヲ尊重シテ可及的其實現ヲ期
スルモ東亜結合、爲必要トスル軍事的、經濟的要請並各地
域、歴史的、政治的、文化的諸要素ヲ考慮シテ其適正ナル
政治形態ヲ決定スルコト。

尚東亜諸民族、獨立ハ飽ク迄「東亜新秩序中ニ存在スル獨立

No 10

Doc 2402B

「**国**」トシテ東亜建設ノ理念ニ主眼スベシモ、ニシテ單ナル自由主義民族自決主義的理念ニ基ク独立トハ其觀念ヲ異ニスルヲ要ス。

三建設過程ニ於テハ特ニ軍事結合ヲ重視スルモノトシ防衛上必要ナル軍事領域及要員ノ直接若ク間接ニ我國之ヲ把握スルヲ

四國內諸民族ヲニテ各々其所得セシメ民心ノ統合收攬ヲ圖リ
皇國ヲ中心トシ國內ノ結束ヲ固クスルコト

五國內諸資源ノ有無相通ヲ期シ國內自給態勢ノ強化ヲ圖ルコト東亜民族ノ分布及其性格ノ概要第六表ノ如シ

第二 二十年後ヲ目標トスル東亜諸地域ノ政治形態

以上述べ来リシ方針ニ基キ東亜諸地域ノ大凡二十年後ヲ目途トスル理想的政治形態ヲ考察スルニ次、如シ

(本件ノ究極ノ姿ニシテ之ヲ實現スル時機及要領ハ一綜ナシスニ情勢ニ依リ、又共榮圈内各國ノ軍事ノ防衛上、必要ニヨリ所要ノ範圍ニテ我國之ヲ掌握乃至指導スベシモノトスルヲ茲ニ詳説ヲ省ク)

一、滿洲國

滿洲國ノ建國ノ理想ニ從ヒテ益々堅實ナル發展ヲ逐ク日滿一休ノ實ヲ挙クベク且對共蘇作戰基地タルノ實ヲ備ヘシム特ニ益々移民計畫ヲ推進シ民族協和ノ實ヲ挙ケシム。

二、支那

既定方針ニ準據シ東亜建設ノ基礎トシテ日滿支提携ヲ具現シ東亜結合ノ一單位トシテ獨立國家トス

三、東部蘇領

No 11

(1) 可成早期ニ沿海地域ハ之ヲ領土ニ編入ス

(2) 右以外ノ地域ハ我國ニ若ハ場合ニ依リ滿洲國ニ屬スル軍
事上ノ特殊地域トナス

四、蒙古

情勢力之ヲ許スニ至ラバ内外蒙古ヲ統一シ蒙古民族可能
範圍ニ於ケル自治ヲ認メ究極ニ於テ為シ得レハ大蒙古國ヲ
建設セシム

此ノ地域ハ軍事的及思想的要請並ニ民族的要望歴史的
考察等ヨリシテ民族國家ヲ構成セシムルヲ適当トスルモ現
狀ニ於テハ蒙古民族ノ民度能力ノ低キヲ考慮スルヲ要ス

五、比律賓

島民多年ノ要望ヲ容レルヘク早期ニ獨立國トシテノ態
勢ニ移行セシメ次テ内政ヲ充實セシム但軍事上ノ要地若干
ハ之ヲ防衛上ノ特殊地域タラシム

此ノ地方ハ支配階級タル者ノ民度比較的高ク且其ノ全地
域モ大ナラザルヲ以テ略自立シ得ルモノト認メラル

六、佛領印度支那

適時安南人ヲ基幹トシ我國ノ保護下ニ先ツ自治ヲ認メ次テ
一國家ノ態勢ニ移行セシム但軍事上ノ要地若干ヲ共同防衛
上ノ特殊地域タラシム

安南人ノ獨立運動ハ其ノ歴史古ク而モ從來相當熾烈ニ行ハ
レ来リタルモ一般的ニ言ヘバ民度低ク其ノ政治的能力亦微弱ニ
シテ未タ充分自治能力ヲ有スルモノト云フヲ能ハサルベシ從ツ
テ民族解放ノ意味ニ於テ之ヲ自立セシムルモ將來久シキニ亘リ
我保護ヲ要スヘシ

Doc 2402B

七. 泰

泰、從來ノ失地回復ノ希望ヲ遂ケシメ我國トノ提携ヲ強化シ
東亞結合ノ一單位トシテ、獨立國家トス
泰ノ民族、歴史等就中其位置、重要性ニ鑑ミ特ニ軍政
治經濟文化等ノ各方面ニ亘リ特ニ緊密ナル協力關係ヲ設定ス

八. 「ビルマ」

ビルマ、其ノ民族的要求ヲ容シ成ルベク速ニ高度ノ自治ヲ認
メ此ノ次イテ可及的範圍ニ於テ逐次獨立國家トシテ、態勢
ヲ整ヘシム

地方、從來相爭熾烈ナル反英獨立運動繼續セウシマリ
フル、ミナラズ歴史的ニモ文化的ニモ之ヲ獨立國家クランルヲ
適宜トスルベシ其ノ民衆能力、一般的ニハヤシモ高カラズ又
東亞資源ノ見地ヨリ、重視スベキ地域トシ又政治的ニモ多數
ノ有力ナル印度人ヲ包容シテ對印度工作上重要ナル據點
トシ、仍テ政治獨立ノ實質ニ於テハ所要ノ保護的干渉ヲ要
スルモノトス

九. 英領馬來及北ボルネオ

1. 新嘉坡及其附近(蘭領ヲ含ム)軍事的重要地、通時我
領トナス

2. 其他ハ上條ノ存在ヲ認メ且之ヲ統合シテ我國ノ保護國
トシテ所要ノ自治ヲ認ム

No 13

此ノ地方、住民ノ民衆政治能力其ニ低劣ニシテ未ダ民族
運動ノ發生ヲ見ルニ至ラズ軍事上及經濟上、要請ヲ中心
トスル原住民族、撫育開發ヲ重視ス

2402B.

一、蘭領印度及其附近(領土編入地域ヲ除ク)

適時「インドネシア」聯邦ヲ組織シ獨立セシメ特ニ經濟上及軍事上ニ至シ我國所必要保護下ニ置ク

從來、蘭印中「ジャバ」ラ中心トスル一部ハ文化程度相高シ其ノ政治能力モ亦少シ低カラサルモ、ト認メラル、ニテ其ノ獨立運動ハ相繼熾烈ニ行ハレ来リタリ文化的ニモ歴史的ニモ之ヲ獨立セシムルヲ適当ト認メラル然レトモ其他ハ一般ニ多少ノ施設経受アル外少數ノ土人ヲ有スル未開野蠻ノ地域ナリ「ニューギニア」等最も甚シ右事情ニ即シ且チ亞細亞ニ於ケル軍事上及資源開發上、見地ヨリ獨立性ト雖尚適宜、保護干渉ヲ必要トス

二「パプア」ニツトウエ「豪洲」委任統治「ニューギニア」及南方諸島

嶼「ニューカレドニア」其他南太平洋上諸島

之等諸島ハ其ノ軍事上の價值大ニシテ而モ民族ト稱スベキモノモ「フサル」以テ所要ニ應ジ逐次之ヲ我領土ニ地方トナス

三「豪洲」及「ニューランド」

東亞建設ノ進捗ニ伴ヒ之ヲ極ニ於テ之ヲ我領土トナシ大和民族進出ノ地ヲラシムルコトヲ目途トス

四「印度」

東亞建設ノ進捗ニ伴ヒ東亞結合單位トシテ我國ト所要

自聯ニ於テ獨立國家ヲラシムルコトヲ目途トス

第五東亞結合ノ要領

14

國內諸國家諸民族ガ東亞建設ノ理念ヲ我ト同ジク東亞ヲ打テ一丸トスル強國ナル結合ヲ實現シテコソ始メテ東亞ノ共榮圈ヲ得ルモノトス殊ニ其建設完ニ成ニ至ルノ間他國ト、長期抗爭ヲ豫想セサルヲ得サルニ於テハ其紐帶ヲ強固ニシ我國之ヲ爭中テ立上ガルノ態勢ヲ整フルコト尚

2402B

緊要アリ

之が爲ニハ自國ノ高度國防國家體制ヲ完成シ物心兩方面ニ巨リテ我が國力ヲ徹底的ニ充實強化スベキ事先決的根
本要請ニシテ此ノ基礎ニ於テハ東亞ノ結成ハ成就得ルモノトス

而シテ東亞共榮圈ノ建設ハ自國ヲ中心トシ自國ニヨリテ推進セラルモノナルヲ以テ其ノ結合ハ我が國自ラ其中心ナリトシ實ニ備ヘ且我が國ト各國家民族トノ直接的結合ヲ強化スルヲ以テ根幹トス。而シテ具体的方法ハ各國家各民族ノ政治的經濟的歴史的文化的相違ニヨリ更ニ我國並ニ東亞防衛ノ自見地ヨリスル軍事的重要性ノ差異ニヨリテ一様ニ非ズ各々異ナル要領アルベキモノナリ共若干ノ着眼點ヲ擧グシ左ノ如シ

1. 日滿一体日滿提携ヲ實現ヲ重視強化スベキコト
2. 北方ニ於テハ滿洲國南方ニ於テハ馬來方面ヲ以テ東亞建設ノ兩據點トシ我が國トノ關係ヲ特ニ一体不可分ナラシム相互事務處理ヲ爲シ圈内各國等ヲ以テ我國ノ主宰トシ隨時例ヘハ委員會ヲ如キモノヲ構成シ圈内一般ノ意思ハ善導集成ヲ図リ相互提携結合ヲ強化ス。之が爲要スル其事務局ヲ我國ニ常置ス

而歴史文化民族就中印度等ヲ異ニスル諸民族及國家ヲ一示五義ノ形式的形態ニ統合セントスルが如キ方法ハ之ヲ採ラス

No. 15

3. 軍事上ノ要點ヲ把握スルコト
4. 經濟的ニ我國依存ノ狀態ヲ強化スルコト
5. 共榮圈建設ノ共同理想トスル思想建設ヲ行フコト
6. 有爲ナル邦人ノ進出ヲ図ル事
7. 日本語ノ普及ヲ徹底スルト共ニ文化ノ交流ヲ図ルコト

2402B

第二章 建設目標

(二七—三八頁)

第一節 思想及文化建設

第一 思想建設ニ於ける一般目標

東亞ニ於ける思想建設、究極ノ目標、建設精神ニ在リ。皇道ヲ宣布シテ東亞ヲシテ天皇ノ威ヲ仰ガシメ之ニ情一ニ奉ルコトコリ東亞永遠ノ生成發展、為唯一無二ノ道ナリト、信仰ヲ確立セシムルニ在リ。而シテ右理想ニ到達スル段階トシテ今後二十年程を自途トシテ東亞ノ各國家民族ヲシテ東亞新秩序建設、世界史的意義ヲ把握セシメ東亞一体ノ共同意識、下ニ東亞ヲ歐美ノ桎梏ヨリ解放シ東洋道義ニ基キ新秩序ヲ建設セントスルニ在リ。信心ヲ確立セシムルヲ要ス之が為其ノ基調トシテ政本、個人主義物質主義思想ヲ排除シ皇道ヲ精髓トスル東亞未來、道義的善思ヲ確立スヘキモノト又其ノ期スル所ノ採取ニ非ズシテ善惡互惠、思想對立相剋ニ非ズシテ互助融和、理念ノ形式的平等觀ニ非ズシテ名分ヲ基調トスル秩序觀、權利觀念ニ非ズシテ報恩奉仕、觀念ノ個別的善惡觀ニ非ズシテ一体的善思ヲ確立セシトスルニ在リ。

第二 文化ニ於ける一般目標

傳統的東洋文化、精髓ヲ發揮セシムルトサニ大陸(即ち亞非拉)文化ニ内在スル消極性、退嬰性ヲ克服シ他面西洋文化長所ヲ攝取シ雄渾精緻ナル東亞道義文化ヲ創造ス。

第三章 建設方略

(八三—八七頁)

第一節 建設方策

第一 建設段階

No. 16

2402B

一 大東亞、經濟、金融、支那、更生及歐米東亞侵略勢力、排除ヲ以テ前提トナス。之が為支那事変及今次対米英戦ヲ包含スル一連、又ハ今後數次ニ亘ルべき戦争ヲ豫期スルヲ要ス。然レトモ戦争ニ據ル侵略勢力、排除ス、ミヲ以テ直ニ大東亞其學園、建設成ルモ、ト束斷セサルヲ要ス。即チ建設自体、為長期ニ亘ル絶大、努力ヲ要スベシ、將又此、建設、一部ハ戦争遂行、不可欠的要件タルニ鑑ミ且ツ戦ミ且ツ建設スル一連、努力ニ俟タサルベカラズ

二 即チ戦争及建設、孰トヨリ何チカ、形態ニ於テ

- (一) 戦争期 (應急建設期)
- (二) 戦後經營期 (整頓建設期)
- (三) 次期戦争準備期 (擴充建設期)

、三段階ヲ豫想シ各々相當、年月ニ一旦ルモノト謂ヒ得ベシ

(一) 戦争期

本期間、今次大東亞戦、遂行期ニシテ戦捷ヲ以テオ義トシ、之が為不可欠トスル一面、建設ヲ強力ニ推進スル外本格的建設ハ戦争遂行、餘力ニ於テ之ヲ行フモノトシ大東亞經濟、胎動期トス

(二) 戦後經營期

一應過渡的安定ヲ得テ國際情勢ヲ利シ自國戦力、整調ヲ計ルトサニ敵側、殘存勢力ニ對シ戦後処理ヲ要スベク之ヲ排除乃至同調施策ヲ積極的ニ推進シ且疆域内諸國家諸民族ヲ把握結集シ其學的經濟、實ヲ舉ゲ大東亞建設、巨歩ヲ補成漸進ス

本段階ハサレトモ戦争期ヨリ短カラサル期ナタルヘシ

No. 17

2402.B

三 拡充期

皇國、国力進展充備ヲ以テ東義トナシ、主トシテ小自給
 圏ヲ範域トスル大東亞共榮圏、其全體盤ヲ概成スルモノトス
 此官僚・印、解放乃至獨立ヲ誘導スル如ク施策ヲ講ス
 ルト共ニ英及其提携國ニ對スルホニ次戰ヲ豫期シ、總力戰的
 準備態勢、強化ニ努ム

本政略、究極ハ對英(米)戰爭ニ達スルヲ今次戰爭ト、
 間隔ハ一應先ツ二十年程度ト見做ラ適當トスヘシ

第二建設、要諦

一 大東亞共榮圏、建設ハ先ツ大東亞防衛力、完成ヲ推進
 スルヲ以テ主眼トシ、建設ニ伴ヒ東亞ニ於ケル欧米、極權ヲ排除
 シ、圏内各國家民族ヲシテ物心兩面ニ亘リ日本ヲ中心トシテ
 結合セシムルヲ要ス之ヲ為日本、国力特ニ軍備、劃期的振
 充ヲ図リ、緊要ナル經濟建設ニ遺憾ナカラシムルト共ニ政治
 思想及文化建設ヲシテ之ニ適應心セシム

二 共榮圏、建設ヲ阻害スル圏内外諸勢力ヲ制圧、破摧ス
 ルニ足ル軍備ヲ充實スルト共ニ之ヲ以テ東亞結合、軸心トシ
 且建設並防衛上、要地及連絡線ヲ確保スル為速ニ必要
 ナル地域、把柄、陸、海及航空基地、建設并軍事據點
 ヲ設定ス

三 經濟建設ハ防衛力ヲ增強スルト共ニ圏内各國家民族
 ヲ結合セシムル一要諦ナリ。就中中核圏ヲ東亞、タタ重工
 業及化學工業建設、核心トスルコトヲ以テ東亞經濟結合
 一要諦トシ、且建設、為緊要ナル交通力特ニ海運、增強
 及日本ヲ中心トスル圏内通貨、貿易制度、確立ニ努ム

四新支那ヲ我ト提携協力ノ方向ニ於テ育成シ中核國ノ安固
確立ヲ図ルト共ニ「圈」内各民族ノ要望ハリ及的之ヲ尊重シ
常ニ各國家民族ヲシテ日本ヨ中心トシテ各々其処ヲ得セシ
ムル政治建設ノ力一筆裁キリ

仍テ各國家民族ニ對シ其民度實力ニ應ジテ通事ナル
指導ヲ加ヘ以テ道義ニ基テ東亞建設ノ為我國ト「國聯」ニ
於テ必要ナル政治力強化ノ方法ヲ講セシム

思想及文化建設ニ方テハ各國家民族ヲシテ欧米ノ
植民地的性格ヨリ蟬脱セシメ皇國其指導者ナル自覺
ノ下ニ之ヲ輔導シ物心一如ノ東洋本來ノ具精神ヲ昂
揚シ東洋文化ノ本質ニ徹スルト共ニ西洋文化ノ長所ヲ
モ攝取シ東亞道義文化ノ創造ヲ期ス

尚各地域ノ傳統及文化ハ其榮國建設ニ支障ナキ限り之
ヲ尊重保全シ其向上發達ヲ助成シ以テ東亞文化ノ進達

第二節 戰爭方略

第一戰爭指導

一斷乎今次戰爭ヲ遂行シ中核國及小共榮國建設ノ基礎ヲ設定ス

二戰後ハ主として武力以外ノ各手段ニ依リ中核國ヲ確立スルト共ニ小共榮

國ノ建設ニ関シ補備促進ノ施策ヲ行フ之ヲ爲大戰略發ニシテ其限度

ニ於テ一部武力ヲ行使スルコトアリ

三次テ支那ト再戰ヲ防シツテ好機ヲ捕捉シテ通時「ソ」英米東亞侵略

勢力ヲ減シ得レバ逐次ニ「擊」敵ヲ小共榮國ニ完成ヲ期スルト共ニ大共榮國

ノ建設ヲ促進スルヲ爲廣ク與國ノ獲得活用ヲ圖リ特ニ獨伊ト提携

協力ヲ持續シ敵對國ヲ歐洲方面ニ牽制ス

2402B

- 四 支那對日之既定方針則提議之方向於新國家之育成
且支那戰之防正之目上受三成之得に我對之積極的助力、
稍望出之
- 五 「ソ」聯對日之當面戰爭回避以一般方針として但今後戰爭周
轉之好機捕捉之場合或「米」對日聯合發生場合等之在「防
衛圈域内」處理之方針として
- 東部西北利に於る脅威存在に限り對「ソ」戰爭、必要に艦
艇將來之得に好機に投ず將來未與戰之尤之擊破之として第
一之方針として「米」聯合を警戒スルとして
- 六 英國及美國對日一般對日聯合を豫期スルに英國を主目標ト
ナシ且之が聯合防正を努ム
大東亞建設完成後、對英及對米再戰、必要に我國建設經綸
速度順位に據立之戰爭、志起る過早トナシサルとして着意ス
此際「ソ」聯、敵存之場合其聯合を警戒ス
- 七 最悪の場合「米」英米聯合、且支那亦及發之、情勢下ニ戰爭ヲ
指導セリルカナル場合此際戰略的各個擊破之策に及
トス
- 八 此ノ戰爭指導即應之に自主的且計畫的國力及戰力を建

第三章 整備ス

第三 總力戰、要諦

前項ニ於て檢討シタル如く現在及將來、敵性諸國夫々
國情ニ依り特異性ヲ認め、各國別ニ自國ノ執ルべき
施策、要諦トスル所ヲ舉ゲシメ、如シ

2420B

一、對米

先づ東亞疆域ニ於ケル其武力ヲ擊破スルモノトシテ、我カ絶對必要トスル戰略據点及重要資源地域ヲ確保管理シ、国力及戰力ヲ增強ニ努メ、以テ不敗持久ノ能力ヲ堅固ニスルヲ第一義トス

一、英ソトノ對日合併ヲ嚴戒シ所要ノ兵力量ノ充備ニ努メ、且戰略的優位ヲ堅持シ南戰ト共ニ在東亞勢力ヲ擊滅ス
二、與國ト策應シ中南米ニ策動シ、米洲團結成、弱化ヲ計ル
ト共ニ彼ノ南米特ニ東亞ニ依存スル重要國防資源ノ入手ヲ制圧隔絶ス

三、彼ガ人種的宗教的弱點ヲ捉ヘ、之ヲ直接的間接的方策ヲ以テ惑亂セシムト共ニ戰意喪失ヲ策ス

二、對英

英ハ其ノ國家構成並ニ自給性格ハ地理的分散ニ因リ敵性國中最も弱作ヲ露ロシテ、東亞武力決戰ト印濠方面ノ制圧トヲ重視ス

一、米ソトノ對日合作ヲ警戒シ、南戰ト共ニ其在東亞武力ヲ擊滅ス、特ニ印濠ヲ制圧分斷ス

二、次テ、我持久態勢ヲ確立スルト共ニ英帝國ノ崩壊ヲ策スルモノトシ、通商破壞戰ヲ強化シ、特ニ印濠食糧資源供給路ノ遮斷ニ努ム

三、英帝國構成分子ノ利害不一致感情疎隔ヲ衝キ思想的二分離セシム

三、對蘇

東亞武力決戰ヲ可能トシ本土ノ倒壊ニハ歐洲方面與國トノ

21

2420b

（東米）ヲ要ス

（一）東米ト、対日合作ヲ敬言或ハ南戰ト共ニ其ノ在東亞武力ノ擊滅

ヲ以テ第一義トス

（二）與國ト東亞應ニ彼ガ構成民族同ノ輿論各社會層、對主威

情任民、對共產黨被壓迫意識等思想間隙ヲ衝キ内

部崩壊ヲ策ス

四 對支

先ヅ武力ヲ以テ敵性ヲ擊破シ要域ヲ確保シタル後武力及

經濟手段ニ依リ奥地ヲ壓縮ス

要ニ皇國總力戰、武力戰ヲ以テ其主作トシ先ヅ敵國、

在東亞勢力及其侵攻勢力ヲ擊破スルコトヲ以テ先決トシ之

ガ為特ニ皇國尚武ノ傳統、其揚ヲ取ル要トス

次ニ持久戰ニ對処スル自主的ニ所要ノ疆域ヲ占領シテ自給

能勢ヲ確保シ南方ノ制圧領有ニ依リ對英米經濟戰ヲ遂行

スベシ又右前後ヲ通ジ敵國內部就中其屬領ニ對シ之

ガ崩壊乃至離反ノ思想戰ヲ展開シ尙一般ノ能氣力ヲ有利

ナラシムル為敵國ノ限定乃至與國ノ獲得ニ関スル外交施策

ヲ行フモノトス

而シテ右方策ノ実行ハ一朝ニシテ成ラズ宜シク將來ヲ洞察シ

テ策策ヲ定メ之ガ基礎ハ平時ヨリハ範圍ニ亘リ深刻且

且作的ニ準備セラルベカラズ

更ニ皇國總力戰ノ在實ニ進ム時我總力戰ノ肇國ノ強盛

ヨリ我ニ道義ニ基ク國皇貴族、クナ遂行セラルモノニシテ

究極ノ本源及目的ニ此ニ在リ歐米ノ夫レト類ヲ異ニスル所

以テ所銘スベシ

22